

150年の時を経て丙寅丸の航跡をたどる



5月17日、大島商船高等専門学校の練習船「大島丸」に乗って四境の役を振り返る公開講座が開かれ29名が参加しました。

これは、四境の役150周年記念事業実行委員会と大島商船との共同で行われたもので、大島丸は高杉晋作の乗った丙寅丸の航跡を辿り、久賀の沖合にある前島周辺に向かいました。船内では、大島商船の田口由香准教授や実行委員会委員による講義が行われたほか、記念事業で作成したDVDが上映されました。日頃、海からの景色はあまり見ることができないとあって、参加者は大島口の戦いを思い浮かべながら、現在の景色に重ね合わせていました。

また、これに先立ち、5月10日、橘総合センターにおいて行われた四境の役150周年記念講演会では、大和大学専任講師・竹本知行氏をお迎えし「兵の詩学（幕末・維新の近代軍制）」と題して講演が行われ、約600名が聴講しました。

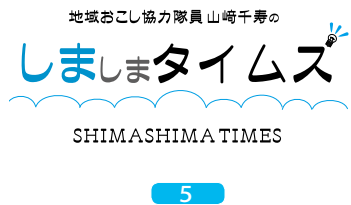
四境の役 大島口の戦いが切手に

5月27日、「150周年四境の役大島口の戦い」のフレーム切手の販売を記念し、町へフレーム切手が贈呈されました。

切手は、82円切手の10枚セット1,300円で、大島口の戦いで活躍した志士たちや当時の様子のイラスト、ゆかりのお寺などがデザインされており、5月27日から1,000シート限定で町内をはじめ周東地区89の郵便局で販売が開始されました。



▲田村和雄周東地区連絡会統括局長（左）から椎木町長（中央）と西川教育長へフレーム切手が贈呈されました



周防大島町定住促進協議会
☎0820 (74) 1007

先日、地域おこし協力隊初任者を対象とした2泊3日の研修会があり、北海道から沖繩まで全国の個性豊かでちよつと変わった地域おこし協力隊員約150人が滋賀県の大津市に集まりました。

「地域おこし協力隊」といっても地域によって活動は様々です。第一次産業の農業や漁業に携わったり、伝統工芸の復興や、地元特産を使ったスイーツの開発をする協力隊がいる一方で、まだ具体的なミッションが決まっていないという協力隊もいました。

研修は参加者全員の自己紹介から始まり、大学教授や任期を終えた協力隊の講演、グループに分かれてワークショップなど夜まで続きました。久しぶりの集団生活で大変でしたが地域の抱える問題や失敗体験を共有できる横のつながりが

きたことは今後活動していく上で大きな原動力になります。そしてなにより協力隊として「地域で楽しく暮らすこと」というシンプルなことが一番大切ということに気づけた研修でした。

さて、次回の海掃除は7月20日(水)午後5時から道の駅サザンセントとうわの沖に浮かぶ真宮島で行います。掃除に必要な道具類はこちらでご用意致しますので動きやすい服装でお越しください。



▲班に分かれてグループ発表している様子